



自然観察

No.110
2014.6月

目次

- ・2014年度総会終わる 2
- ・会費値上げのお知らせ・会費納入のお願い 3
- ・2013年度NOC会計決算報告 4
- ・2014年度会計予算 5
- ・総会講演 「北海道医療大学の森」 6
- ・「第25回滝野の自然に親しむ集い」参加のお願い 10
- ・2013年度観察会実施状況報告 11
- ・フィールドニュース 12
- ・ウォッチングレポート 13
- ・ウォッチングプラン 15
- ・参加者の声 15
- ・事務局だより・連絡先 16



子育て真っ最中のムクドリ (6月中下旬) (滝川市の滝の川公園)

2014 度 総 会 終 わ る

2014 年度北海道自然観察協議会総会は、4 月 13 日(日)に札幌エルプラザで開催されました。総会では、2013 年度の事業報告並びに決算報告等が了承されるとともに、3 号議案の 2015 年度からの会費値上げ案並びに新年度の 2014 年度事業計画案及び予算案の決定もそれぞれ行われました。

総会終了後、北海道医療大学准教授の堀田 清氏による「北海道医療大学の森～客土事業によって荒れた森を復活し里山へ～」と題した報告が行われました。

2013 年度事業報告及び 2014 年度事業計画については、前号の 109 号にそれぞれ掲載しましたが、以下の部分は総会で修正提案の上、了承されましたので掲載いたします。他の部分は 109 号に掲載された内容と変わりありません。

なお、年度末で確定した 2013 年度決算報告、監査報告、2014 年度予算も合わせて掲載します。

《第 1 号議案 2013 年度事業報告関係》

1. 観察会の実施状況

《一般観察会について》

2013 年度の観察会は、滝野の集いを除き、45 回開催が予定され、4 開催の中止を除き現在(3/31)まで 41 開催が無事終了しました。

このうち報告書未着および報告書不備の 5 開催を除く 36 開催について集計しましたので概要を報告します。

一般参加者 延べ 520 人(うち年代記載者 515 人)

参加指導員数 延べ 130 人

年代別参加者数では、年代記載者 515 名中 60 代が 231 名とおよそ 45%を占めています。とくに 60 代女性だけで 170 名と 33%を占め、以下 70 代 115 名、50 代 64 名となっています。

各観察会の実施状況はその都度、会報に掲載しています。

5. 組織の状況

3 月末現在で会員数 318 名

10. 他機関との連携、交流

(2) 共催・後援

共催：北海道教育委員会・恵庭市教育委員会
第 450 回 NACS-j 自然観察指導員講習会

後援：札幌市教育委員会

第 24 回滝野の自然に親しむ集い

第 13 回北大構内親子で楽しむ雪の観察会

《第 3 号議案 2015 年度からの会費値上げ関係》

2015 年度(平成 27 年度)より会費を値上げする。

自然観察 110 号(2)

個人会費は年額 1,500 円を 2,000 円とする。但し、同一世帯で複数会員となる場合は、2 人目からは 1,500 円とする。

※値上げ理由：消費税アップによる諸経費の圧迫、会員の減少や会費滞納者による会費収入の減少のため

《第 4 号議案 2014 年度事業計画関係》

1. 観察会の開催について

(1) 今年度の観察会実施計画は別表「2014 年度自然観察会予定表」(配布済み)の通り、「滝野の集い」を除き 46 回開催が予定されています。(4 月 13 日現在)

今回掲載以外にも企画があれば観察部山形へご連絡下さい。できる限りバックアップしたいと思います。

(2) 各観察会連絡担当者の方は、観察会一般参加者名簿、指導員用名簿及び 14 年度観察会予定表など、観察会で使う用紙の必要枚数を観察部山形までご連絡ください。

(3) 観察会の報告書は観察部山形へ、保険料など現金は観察部会計小川へ送付ください。振り込みを利用する方は、会計小川へ申し出て下さい。印字済みの振込用紙をお渡しします。

口座番号：2770-9-34461

(通常払込加入者負担の用紙)

加入者名：北海道自然観察協議会観察保険料

(4) 観察会の予定及び実施状況は、会報及び北海道自然保護協会の HP でお知らせします。

<http://www.jade.dti.ne.jp/~nchokkai/kansatsu.html>

(5) 各観察会で作成・使用した資料を収集しています。会員が閲覧利用できる仕組みを検討中です。観察会報告書に同封するなどご協力下さい。また観察会当日の写真がありましたら、観察部へお送りください。HP に掲載いたします。

(6) 観察会の下見会を、会員同士の交流と研修の場として活用して下さい。

(7) 団体などから観察会の要請があれば、事務局が窓口となり一括して指導員派遣の要請を受けていきます。

(8) 「第 25 回 滝野の自然に親しむ集い」は、滝野実行委員会（委員長・事務局・編集部・観察部・研修部各 1 名選出）と補佐で組織して実施する予定です。

(9) 観察部では備品の充実をはかって行きたい

と考えています。また現在保管している備品に関しても有効な利用法を検討して行きたいと考えています。

(10) 共催で協議会の保険を使う場合は、参加者名簿と一人当たり 50 円の保険料を協議会へ送ってください。ただし、1泊2日以上は該当しません。

会費値上げのお知らせ

来年度（平成 27 年）から会費が値上げになります。個人会員は年額 1,500 円が 2,000 円に、同一世帯に複数の会員がいる場合は、2 人目からは年額 1,000 円が 1,500 円になります（例えば夫婦会員では 2,500 円が 3,500 円）。

「会費値上げの理由」

- ① 会費収入に対して支出が大きく上回っていること。
- ② その原因の一つとして、近年、会費未納者が多く、収入減になっていること。
- ③ 消費税の値上げにより支出の増加が懸念されること。

会費納入のお願い

本協議会の活動は、会員の皆様の会費によって運営されています。会員の皆様におかれましては、是非とも、会費納入にご協力いただきたく、宜しく願いいたします。

・今年度までは個人会員の会費は年 1,500 円です。来年度分まで納入される方は、会費が値上げになりますので、ご注意ください。

- ・封筒の氏名欄に納入済みの年度までが記載されています。
- ・会費未納の方には、今年度までの未納額を記した繰り込み用紙を同封しています。
- ・既に納入された方には、振り込み用紙は同封していません。
- ・住所変更などありましたら、振り込み用紙の通信欄にご記入下さい。
- ・差し支えなければ、メールアドレスや電話番号もご記入下さい。

※退会の申し出があるまでは会員です。退会の届出された年度を含む会費の納入をしていただきます。

(2号議案)

2013年度 NOC会計決算報告(14年4月6日現在)

単位(円)

収入の部		予算額(A)	決算額(B)	増減(B-A)	摘要
前年度繰越		516,945	516,945	0	
会費		400,000	442,500	42,500	会員318名(13年度末段階)
観察会・研修会参加費		50,000	125,235	75,235	研修会資料代・観察会保険料(2年度分)
積立金取り崩し		350,000	0	-350,000	NAC-J 指導員講習会運営費
雑収入		1,000	27	-973	利息27円
合計		1,317,945	1,084,707	-233,238	

単位(円)

支出の部		予算額(C)	決算額(D)	増減(C-D)	摘要
事務費	通信費	10,000	11,610	-1,610	郵送料・郵券代 ホームページ管理
	消耗品費	30,000	15,418	14,582	振込用紙印字代 コピー代 文具代など
	会議費	50,000	39,565	10,435	理事会会場費 理事通信・旅費補助
	<小計>	90,000	66,591	23,409	
会報費	会報郵送料	150,000	106,340	43,660	会報発送代(加付メール便 4回)
	印刷代	250,000	218,713	31,287	会報発行費(4回) 封筒印刷代含む
	ラベル代	10,000	7,340	2,660	会報発送用ラベル
	封筒印刷代	25,000	0	25,000	角2封筒印刷
	原稿謝礼代	5,000	0	5,000	
	通信費・振込料	12,000	6,940	5,060	編集関係郵券代 振込手数料など
	消耗品費	3,000	8,676	-5,676	用紙・文具代など
	駐車場料	0	5,800	-5,800	編集・発送作業駐車料(4回)
<小計>	455,000	353,835	101,165		
活動費	観察会費	50,000	31,075	18,925	参加者保険料 振込手数料
	研究会開催費(兼研修会)	30,000	22,825	7,175	講師謝礼・懇親会費 お茶代 会場費
	全道研修費	60,000	59,981	19	講師謝礼 資料代 運営補助費として
	地方研修費(旭川)	40,000	5,000	35,000	備品借り上げ料として
	フォローアップ研修会	0	33,605	-33,605	講師謝礼・旅費・懇親会費 会場使用料
	指導員講習会助成	350,000	55,880	294,120	NAC-J 指導員講習会運営費として
	救急救命講習会	16,000	9,150	6,850	講師派遣費 会場費
	用具費	10,000	0	10,000	
	雑費	15,000	510	14,490	振込手数料 郵券代
	団体加入費	0	3,000	-3,000	高山植物ネットワーク加盟費
<小計>	571,000	221,026	349,974		
30周年積立	30,000	0	30,000	財政難のため執行せず	
予備費	171,945	0	171,945		
合計	1,317,945	641,452	676,493		

収支残高

総収入(B)1,084,707円 - 総支出(D)641,452円 = 残金443,255円
次年度繰越

30周年特別会計
(ゆうちょう定額預金へ)

2012年度繰越金	430,000	(12年度決算より)
13年度積立金	0	(財政難のため執行せず)
2013年度繰越金	430,000	

2014年4月13日 上記の通り決算報告いたし
会計 三浦 英一

2014年4月13日 上記に関する監査を実施し、適正であることを認めます。
監事 佐藤 佑一 鈴木 克司

2014年度 NOC会計予算

収入の部

単位(円)

項 目	14年度予算	13年度予算	増 減	摘 要
前 年 度 繰 越	443,255	516,945	-73,690	
会 費	430,000	400,000	30,000	会員318名(1500円×0.9)
観 察 会・研 修 会 参 加 費	50,000	50,000	0	観 察 会 参 加 費 (保 険 代、資 料 代)
積 立 金 取 り 崩 し	0	350,000	-350,000	※14年度は指導員講習会なしのため
雑 収 入	1,000	1,000	0	利息など
合 計	924,255	1,317,945	-393,690	

支出の部

単位(円)

項 目	14年度予算	13年度予算	増 減	摘 要	
事 務 費	通 信 費	30,000	10,000	20,000	理事連絡費補助 郵券代など
	HP管理費	10,000	0	10,000	HP管理費(13年度は通信費に含む)
	消 耗 品・雑 費	20,000	30,000	-10,000	振込用紙印字代 コピー・文具代など
	会 議 費	50,000	50,000	0	理事会会場費 理事会旅費補助
	<小計>	110,000	90,000	20,000	
会 報 費	会報郵送費	150,000	150,000	0	会報発送代(ケネメール便 4回)
	会報印刷代	280,000	250,000	30,000	会報発行費(4回) 封筒印刷代含む
	原稿謝礼代	5,000	5,000	0	
	宛名ラベル代	0	10,000	-10,000	※消耗品・雑費に移動
	会報封筒印刷代	0	25,000	-25,000	※会報印刷代に移動
	通 信 費・振 込 料	10,000	12,000	-2,000	編集部関係郵券代 振込手数料など
	消 耗 品・雑 費	10,000	3,000	7,000	宛名ラベル代・文具代など
	駐 車 料	6,000	0	6,000	編集・発送作業駐車料(4回分)
<小計>	461,000	455,000	6,000		
活 動 費	観 察 会 費	50,000	50,000	0	参加者保険料 保険料振込手数料
	総 会 開 催 費 (兼 研 修 会)	30,000	30,000	0	講師謝礼・旅費 懇親会費講師分 会場費
	全 道 研 修 助 成	60,000	60,000	0	講師謝礼 資料代 運営補助費として
	開 催 地 研 修 会 助 成	40,000	40,000	0	講師謝礼 資料代 運営補助費として
	フ ォ ロ ー ア ッ プ 研 修 会	40,000	0	40,000	講師謝礼・旅費 懇親会講師分 会場使用料
	指 導 員 講 習 会 助 成	0	350,000	-350,000	※14年度は指導員講習会なしのため
	救 急 救 命 講 習 会	16,000	16,000	0	講師派遣費 会場費
	用 具 費	0	10,000	-10,000	雑費に移動
	雑 費	10,000	15,000	-5,000	振込手数料 郵券代 文具・消耗品など
	団 体 加 入 費	3,000	0	3,000	高山植物ネットワーク加盟費
<小計>	249,000	571,000	-322,000		
30周年積立	0	30,000	-30,000	※財政難のため今年度の積み立てなし	
予 備 費	104,255	171,945	-67,690		
合 計	924,255	1,317,945	-393,690		

30周年特別会計		
(ゆうちよ定額預金へ)	2013年度繰越金	430,000
	14年度積立金	0
	2014年度へ繰越	430,000

『北海道医療大学の森 ～客土事業によって荒れ果てた森を復活し里山へ～』

北海道医療大学薬学部

薬用植物園・北方系生態観察園担当 准教授 堀田 清

<私の3つの研究テーマ>

最初に私の研究テーマの中で最も重要な荒れた森の復活研究を紹介しましょう。
まずは、私の研究テーマは3つです。

- ①荒れた森の復活研究＝北海道医療大学・北方系生態観察園の里山化
- ②自殺予防、自分のことを愛せることのできるクスリ（口から飲まない！＝能動的に得る感動！）開発研究
- ③乾燥ダイコン葉エキス入り手作り石鹸『すずしろの花』の販売（牧田病院、今井純生先生とのコラボ）

上記③については、今井先生の患者さん（アトピー性皮膚炎）250名に協力していただき8年がかりで研究、開発、製品、商品化しました。そして、北海道医療大学発ベンチャー企業（株）植物エネルギーを設立し、化粧品製造販売業の認可をとり全ての工程を私とスタッフ2人だけで行っています（詳しくはHP <http://suzushiro.sakura.ne.jp/>をご覧ください）。

上記②のテーマは、③のテーマと強く連動しています。「森の植物たちから地球の元気（漢方で最も大切な「気」）をもらって希望という前向きなエネルギー、力を湧き立たせる」ということで、北海道医療大学・北方系生態観察園のお話です。

まずは、その歴史をご覧ください。

北方系生態観察園のあゆみ

年度	出来事	来園者数
1997年 (平成9年)	故縣功名誉薬草園園長と学生たちと共に、大学裏山保安林全体の植物調査を行い、『北方生態植物園実施調査報告』を作成。	
2000年 (平成12年)	北海道大学薬学部薬用植物園助手だった吉田尚利氏を本学へ招聘	565名
2001年 (平成13年)	6月、総延長2kmに及ぶウッドチップを敷きつめた散策路が完成。北方系生態観察園と命名。以後も吉田尚利氏が継続的に笹刈りなどの整備を行う。	934名
2002年 (平成14年)	日本植物園協会に入会が許可される。絶滅危惧種 ヒスイカズラを導入	1,547名
2006年 (平成18年)	2006年2月 堀田清が北方系生態観察園内で撮影した植物を中心とした写真展「植物エネルギー」を富士フォトサロン札幌にて開催（2週間）。来場者数3,800名	3,000名
2008年 (平成20年)	北海道新聞社から植物写真エッセイ「植物エネルギー 北方系生態観察園の四季」を出版。 漢方・薬用植物研究会（年4回、北海道医療大学・札幌薬剤師会北支部共催）	5,000名
2010年 (平成22年)	漢方・薬用植物研究会（年4回、北海道医療大学・札幌薬剤師会北支部共催）	2,841名
2011年 (平成23年)	漢方・薬用植物研究会（年4回、北海道医療大学・札幌薬剤師会北支部共催）	3,599名

2012年 (平成24年)	写真展「植物エネルギー ～ 北海道医療大学の森 ～ 」を富士フィルムフォトサロン札幌で開催(1週間)。来場者数2,000名 漢方・薬用植物研究講座(年6回、北海道医療大学主催)	2,952名
2013年 (平成25年)	漢方・薬用植物研究講座(年6回、北海道医療大学主催)	3,428名

北海道医療大学は札幌から北東に30km離れた当別町のはずれにあり、周辺には広大な石狩平野が広がり、田園風景の素晴らしいところです。大学の裏手には薬用植物園があり、そのすぐ後ろにある山および周辺全体が北方系生態観察園となっています。その広さは153,000 m²に及び、全国の国公立薬科系大学のなかでも、これほど広大な自然観察施設をキャンパス内に持つ大学は多くはありません。

<荒れ果てた森を豊かな森に作りかえる>

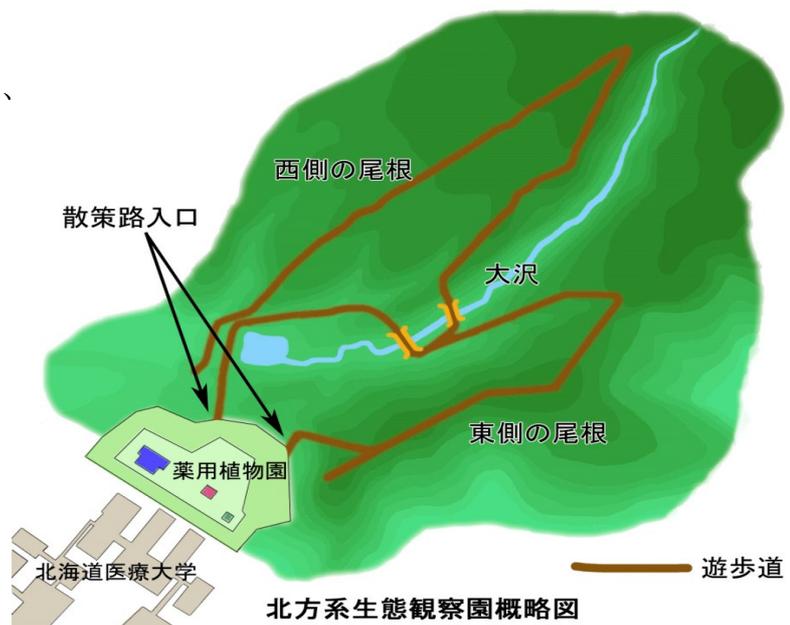
しかしながら、1997年に植生調査を開始した時点ではクマイザサが繁茂し、植生的には極めて劣悪な環境でした。この原因は後に分かるのですが、石狩平野の大規模客土事業による山土の大量喪失に由来しています。

すなわち、元々石狩平野の大部分は、釧路湿原やサロベツ湿原をしのぐ北海道最大の大湿原でした。一説では6000万m²とも試算される世界でも類をみない客土事業によって現在の豊かな農業地帯が形成されたのです。すなわち、山土喪失の代償に豊かな大地を手に入れたということになります。

北方系生態観察園の森もかつての客土事業によって多くの山土が消失し、そのまま放置された結果、笹だらけの荒れ果てた森になっていたのです。

当時植物の勉強を始めたばかりの私は、師匠の故郷功初代薬草園園長と一緒に学生たちの手も借りて、開学以来24年間手付かずだったこの大学の裏山の植物調査を開始しました。藪ごぎの連続で大変な時間と労力を要しましたが、劣悪な条件の中でもたくましく生き延びているトチバニンジン、オノノヤガラ、キハダ、ニガキ、ホオノキなどの日本薬局法収載の薬用植物の存在も確認し、貴重な動植物や薬草を自然のままに観察できる施設として有効利用でき、学生の教育のみならず、ステキな里山として札幌近郊一般の来園者も見込め、大学のPRにもなると考えました。春から秋までの定期的な植物調査結果をまとめ、大学経営者に散策路付き北方系生態観察園設立計画を直接提案したのでした。

そして1999年、本園設立のために助教授ながら薬草園園長に就任し、2000年には北大薬学部を退職した植物の達人だった吉田尚利氏を招聘、2001年に北方系生態観察園が設立されました。2004年からは、私自身が繁茂していた笹駆除を始め林床の回復を図ってきました。現在ではリピーターさん30名以上の方が笹の駆除をしてくださる共同研究者として参加し、当時とは比べものにならないスピードで笹の駆除が進み、加速度的に森が豊かになり、年間3,000名ほどの方が訪れる森になりました。



<大変、恵まれた自然環境の北方系生態観察園>

北方系生態観察園は、全体が周囲より一段高い山になっており、中心にある「大沢」（図参照）は雪解け水と雨水のみを水源としています。その結果、周囲から農薬の影響を受けることも無く、植物だけでなく、動物、鳥、昆虫にとっても大変恵まれた自然環境となっています。鳥類はクマガラ、ヤマゲラ、オオアカゲラ、アカゲラ、コゲラ、シマエナガ、ミヤマカケス、ツツドリ、カッコウ、オオルリ、キビタキなどが観察でき、園内にある池はトンボの絶好の生育場所で、シオカラトンボ、オニヤンマなど7科21種の生息が確認されました。特にアオヤンマは本園が北限であることがわかりました。エゾリス、エゾシマリス、エゾユキウサギ、さらには、最近住み着いたエゾモモンガなどの小動物、エゾハルゼミ、アブラゼミ、クワガタ、ミヤマクワガタ、ノコギリクワガタ、アゲハ、キアゲハ、カラスアゲハなどの昆虫も多数生息しています。

「大沢」には春の雪解けの時期、ほんの数日間だけ雪解け水の轟音が鳴り響きます。その後、谷はあっという間にエゾノリュウキンカの黄金色に染まります。ザゼンソウやミズバショウ、ネコノメソウなど湿地性の植物も観察できます。上流のほうにはニリンソウの変異株であるミドリニリンソウの群生地もあります。夏には大沢の水は完全に涸れ、谷には2メートル以上もあるオオウバユリの開花株が多数出現します。ため池のほとりにハクリンソウやミツガシワが咲き、池にはヒシやヒツジグサが咲きます。

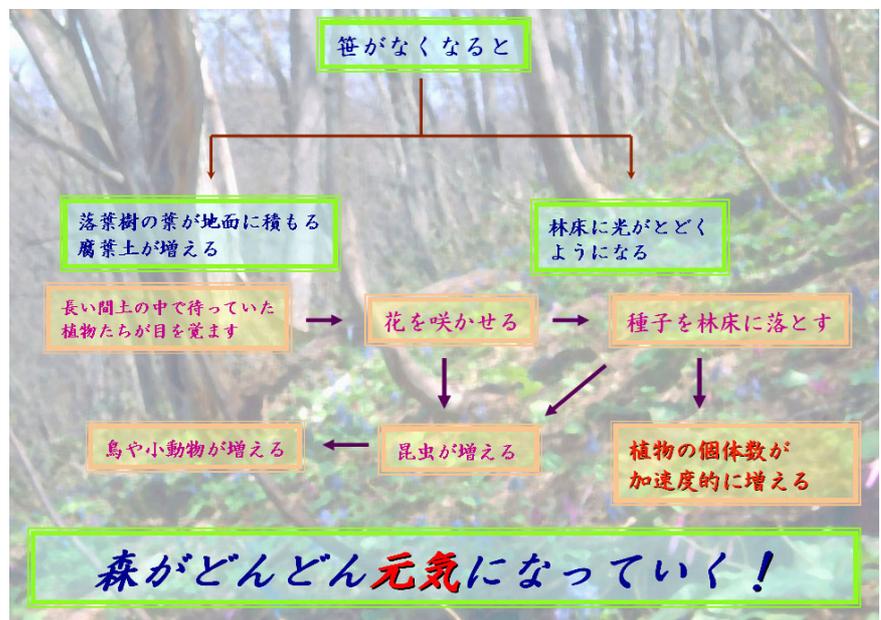
「大沢」を中央に挟んで、図の左側を「西側の尾根」、右側を「東側の尾根」と呼んでいます。カタクリ、エゾエンゴサク、ニリンソウの大群落は東側の尾根にあります。その他にもナニワズ、ヒメイチゲ、ヒトリシズカ、フデリンドウ、クルマバソウ、ヤマシャクヤク、クルマユリ、サラシナショウマなど多種多様な可憐な植物たちが観察できます。エンレイソウ、ルイヨウボタン、ルイヨウショウマ、クルマバツクバネソウ、トチバニンジン、オオアマドコロ、マイヅルソウ、フッキソウなどの実をつける植物は秋までその姿を楽しませてくれます。樹木は主にシウリザクラ、オオカメノキ、ホオノキ、オオバボダイジュ、イタヤカエデ、サワシバ、オヒョウ、オニグルミ、ハリギリ、キハダ、ミズキ、ハイイヌガヤなどがあります。

西側の尾根はなだらかな丘陵地帯になっており植林事業が行われています。夏にはネジバナやオオヤマサギソウなどが見られます。ギンリョウソウの出現するスポットもあります。樹木は主にミズナラ、アズキナシ、シラカンバ、シナノキ、ノリウツギ、ハウチワカエデ、ヤマウルシなどがあります。秋は紅葉がきれいです。図の西側の尾根沿いのルートだけは植林事業の作業道路として利用されているためウッドチップではなく、砂利が敷かれています。

園内には山菜も豊富でギョウジャニンニク、ウド、タラノキ、コシアブラ、ユキザサ、ワラビなどが多数自生しています（もちろん採取は禁止です）。冬もスノーシューを履いて訪れることができ、木の冬芽を観察できます。

<19年度から新たな事業として立ち上げだ漢方・薬用植物研究講座>

19年度から新たな事業として漢方・薬用植物研究講座を立ち上げました。年6回の講座で、その内、4月下旬、5月中旬、6月上旬、8月下旬の4回は薬用植物園と北方系生態観察園を利用し、継続的に観察会と講演会を行い色々な植物の芽出しから枯れるまでを観察、最近では鳥の観察会も同時に行いながら、漢方で最も大切な「気」の概念と漢方における病気予防の極意「自然と調和する」の実践講座で、毎年100人ほどの参加者があります。



残りの2回のうち7月中旬にはバスツアーで襟裳岬(3回)、広尾町と襟裳岬(湧洞原生花園)、美深町(松山湿原、雨霧の滝、雄武町日の出岬)まで出かけ、植物観察会と旬の食材を生産者と共にいただく食育研修会、さらに残りの1回は、2月上旬にアスティ45にあるサテライトキャンパスで漢方から学ぶ風邪予防に関する講演会を開催しています。このイベントは北海道医療大学主催で行われ、北海道医療大学の生涯教育事業の1つにも組み込まれています。主な対象は北海道在住の薬剤師さんですが、一般の方も参加可能となっています。講演会も堅苦しい内容ではなく、写真家などの自然や植物を愛する人に講演していただくようにしています。

ところで、植物の種子は、芽を出すのに最適な環境になるまで、土の中で何十年も待っているといえます。10年以上、私は自ら剪定バサミと山草掘りを持って繁茂する笹とシダ類の駆除を継続的に行ってきました。また、ここ数年来、北方系生態観察園に訪れるリピーターさんたち、延べ30人以上のリピーターさんが、北方系生態観察園の里山化研究の共同研究者になってくださり、笹の駆除がどんどん進み、加速度的に森が豊かになっています。笹を刈った場所には、翌年カタクリやエゾエンゴサクが咲き乱れ、それに伴って昆虫、鳥、小動物が増え、森が元気になってくるのを目の当たりにして、私たちはこの森を自分の子供のように愛するようになりました。

森が豊かになるとキツツキが戻ってくると云われています。

(<http://blog.canpan.info/ohisama-shinpo/archive/98>)

北海道医療大学の森(北方系生態観察園)にもコゲラ、ヤマゲラ、アカゲラ、オオアカゲラなどのキツツキが戻ってきました。さらに昨年からは、あのクマガラもやってくるようになり、森がどんどん豊かになっていることがわかります。



(左) 雪解け直後、カタクリ、エゾエンゴサクの無数の芽だし(2013.4.18撮影)

(左下) 森が豊かになるとクマガラが戻ってくる(2014.1.30撮影)



(上左) 北方系生態観察園に住むエゾリス(2013.10.30撮影)、(上右)系生態観察園に住むエゾモモンガ(2011.4.7撮影)

今後も近隣住民に愛される里山を目指し、北方系生態観察園がさらに豊かな植生を持つ森になるようあらゆる努力を続けていきます。

なお、今回の講演では、北海道医療大学の森にどんどん増え続けている薬用植物のお話も少しだけさせていただきます。(当日は、ユキザサ、ウド、タラノキ、オオアマドコロ、トチバニンジンについて写真を交えてお話いただきました。)

* 北方系生態観察園は大学の研究施設です。一般の方の見学は可能ですが、事前にお申し込みが必要です。園内の植物は全て貴重な研究材料ですので、お手を触れないようにお願いします。

●堀田 清のプロフィール

1958年浦河町生まれ。東日本学園大学(現・北海道医療大学)卒業後、北海道大学大学院薬学研究科に進学、博士課程終了後、北海道大学薬学部助手となり有機化学の研究に15年半携わる。1997年に母校である北海道医療大学に戻り、薬学部生薬学教室助教授となる。2009～2011年、薬学部附属薬用植物園園長、この間北方系生態観察園の里山化に奔走、以後北方系生態観察園の里山化研究を精力的に遂行中。2006年、薬用植物園・北方系生態観察園担当准教授。

北方系生態観察園内の植物の芽出しから枯れるまでをフィルムカメラで撮影しつづけ、2008年2月、北海道新聞社より写真エッセイ集「植物エネルギー 北方系生態観察園の四季」を刊行(2013年春、3500部完売後、絶版)。

北方系生態観察園のみでなく、北海道中の植物の芽だしから枯れるまでの写真を撮り続け、富士フィルムフォトサロン札幌、仙台、東京、大阪で、計8回の写真展を開催するなど、写真家としても活躍中。また、研究成果である乾燥ダイコン葉エキス入り手作りセッケンを販売する大学発ベンチャー企業「植物エネルギー」の代表取締役でもある。2014年2月13日の日経新聞の「キャンパス発この一品」でも紹介される。また、2009年4月から2014年3月まで北海道テレビHTB番組「イチオシ!」のレギュラーコメンテーターを務めた。

●著書

植物写真フォトエッセイ「植物エネルギー 北方系生態観察園の四季」

(2008年2月、北海道新聞社から発刊、2013年3500部完売後絶版)

植物写真エッセイ「びふか松山湿原の植物エネルギー」

(2013年2月、(株)植物エネルギーから発刊)

植物写真エッセイ：北海道の花生活マガジン MyLoFE (まいろふえ)

(2010年4月～) 植物写真エッセイ「心と体をうるおす野草」執筆中

●ブログ等

新ブログ(堀田清の元気の出るおはなし：<http://blog.livedoor.jp/maruhogekintane/>)

旧ブログ(元気が出るお・は・な・し)：<http://maruhogekintane.cocolog-nifty.com/>

元気の出る my HP(元気の種)：<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~maruho/index.htm>

●連絡先

〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757 Tel 0133-23-3792(直通) Fax 0133-23-3792

E-mail maruho@hoku-iryo-u.ac.jp

「第25回滝野の自然に親しむ集い」参加のお願い

「滝野の自然に親しむ集い」の日程が下記のようにになりました。

たくさん子ども達やその家族と過ごす2日間です。指導員としてのフォローアップ研修にもなります。多くの指導員の方々のご参加、ご協力をお願いいたします。ご協力いただける方は担当者(池田)へご連絡ください。

実施日：8/9(土)～8/10(日)

実施場所：滝野自然学園

指導員参加費：3,700円

内容：せせらぎウォッチング・夕食作り・キャンプファイヤー・ナイトハイク・星空ウォッチング・自然観察ハイキング他

連絡先：池田(011-708-6313)

* 7月1日(月)まで参加される方はお知らせください。ご都合の悪い方は1日参加でも結構です。

・事前の下見を実施します。

1回目は7/26(土)集合12:30～16:30。2回目は8/3(土)集合10:00～14:00

- ・昼食、図鑑、双眼鏡、ルーペ（あれば）準備 小雨決行。相乗りで現地（学園）に入り、下見と打合せ。
- ・下見集合場所・時間(車乗り合わせ後、滝野学園へ)：地下鉄南北線自衛隊駅裏口：7/26、集合12：00(8/3、集合9：30)（車で札幌方向から平岸通りを真駒内方面に行き、「マックスバリュ澄川店」前信号を左折、地下鉄シェルターに沿って50メートル。)

2013年度観察会実施状況報告

2013年度観察会は、滝野の集いを除き45開催が予定され、悪天候などによる中止4開催と報告書不備および未着の5開催を除く36開催について集計しました。

年代別集計は、総参加者520名中、年代記載者515名について行いました。

過去5年間の年代別参加者数（表1参照）

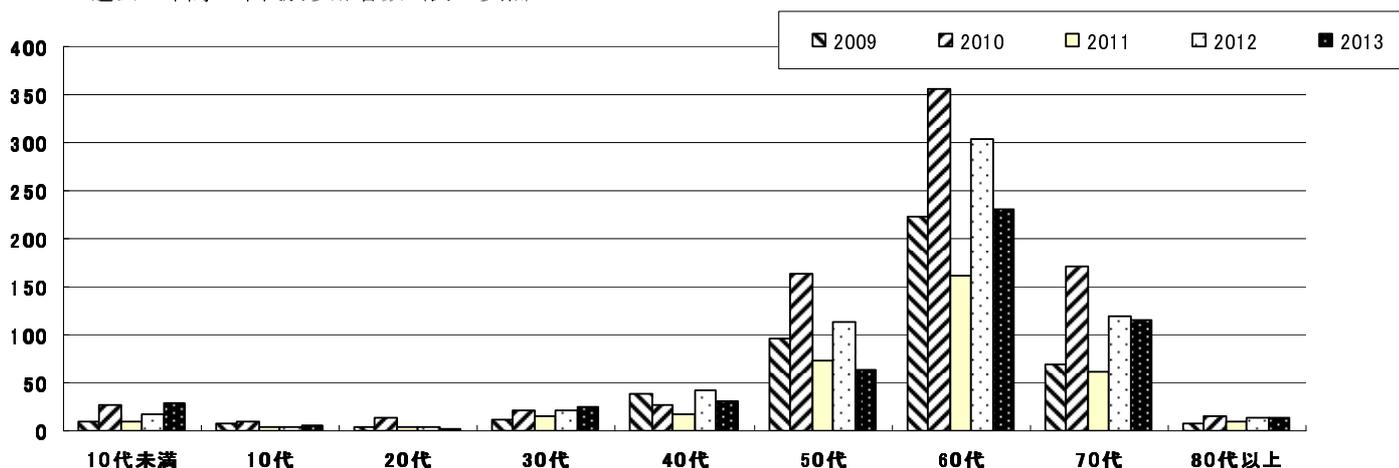


表1 過去5年間の年代別参加者数

表4 13年度年代別性別分析

	2009	2010	2011	2012	2013
10代未満	9	26	9	18	28
10代	7	10	3	4	6
20代	4	13	4	4	2
30代	12	22	16	21	25
40代	39	26	18	42	30
50代	97	164	73	114	64
60代	223	356	162	303	231
70代	70	172	61	120	115
80代以上	8	15	10	14	14
計	469	804	356	640	515

年代	人数	%
10代未満男	14	2.7
10代未満女	14	2.7
10代男	6	1.0
10代女	0	0.0
20代男	0	0.0
20代女	2	0.3
30代男	7	1.3
30代女	18	3.5
40代男	10	1.9
40代女	20	3.8
50代男	19	3.5
50代女	45	8.7
60代男	61	12.0
60代女	170	33.0
70代男	61	12.0
70代女	54	10.4
80代以上男	9	1.7
80代以上女	5	1.0
計	515	99.5

表2 13年度参加者男女の割合

男	189	36.3%
女	331	63.7%
計	520	100%

表3 一般参加者数と参加指導員数

開催年度	2009	2010	2011	2012	2013
開催回数(回)	48	47	52	50	45
一般参加者(人)	608	825	427	650	520
指導員(人)	183	181	148	163	130

2,000羽のハクチョウ

紋別市 大館 和広

私の自然フィールドは道東道北と広いのだけど、コムケ湖は近くにあるという理由で年間100日ほど通っている。コムケ湖はアイヌ語で「湖岸の曲がりくねった沼」という意味で面積5km²と小さいが、湖岸は22kmもある。

コムケ湖を知る人や訪れる人は、熱心な鳥見人ぐらいなものだったが、近年色々と注目を浴びることもあり、少しずつ知られるようになってきているようだ。

オホーツク海岸の中央部に位置する地理的条件からか渡り鳥にとって重要な処であるらしい。とくにシギ・チドリ類においては日本でもベスト10に入るような重要な処なのであるが、行政、市民の理解や関心が低く、ラムサール条約登録湿地の活動は、ちっともすすんでくれない(ぐちです)。

私がコムケ湖を見るきっかけとはハクチ

ョウであったが、見始めた頃はピーク時で300羽位なものだった。それが4~5年前からバクハツ的に増加し、2,000羽が長期に滞在し、ピーク時で3,000羽を越えているのです。これは秋期、春期とも同様だ。

バクハツ的に増加した原因は、科学的にはまったく不明で推測の域を出ないが、ひとつは他地域(中継地)の何らかの環境変化(悪化?)、もうひとつはコムケ湖の自然環境で、ハクチョウが長期滞在していける生息条件に変化したことだろうと思う。

見た目には30年前と何も変化が無いようだが、自然は見る者によって優しくもキビシクもなる先生なのだった。もっと観察と勉強を続け、私のフィールドの見地を得ようと思う。

水位下げられた洞爺湖財田で見られるもの

洞爺湖町 石山 ちえみ

突然ですが、洞爺湖にある財田(たからだ)という場所をご存じでしょうか。財田は洞爺湖の北側、洞爺湖温泉街より湖を挟んでちょうど反対側に位置する場所です。

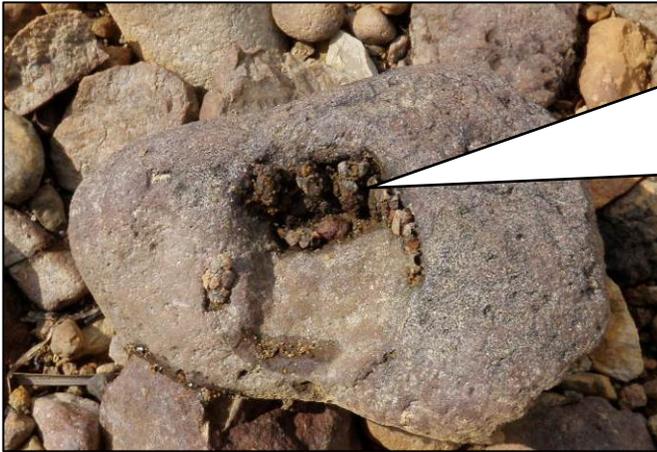
洞爺湖の南側には平均すると約30年に1度噴火する有珠山があり、噴火後の自然の様子や長い年月をかけ、自然が回復していく様子が観察できます。一方、北側はそこまで噴火の影響を受けないため、元々の自然が残されています。洞爺湖は北と南で約10km(洞爺湖の直径)程度しか離れていませ

んが自然の様子が異なるおもしろいフィールドです。今回は、そんな財田のフィールドニュースをお伝えします。

洞爺湖では初春になると水位が一時的に下がる現象が起きます。これは、雪解け水が一気に湖に流れ込むと水位が上がり、危険なためです(水位は人工的に下げます)。そのため、3月になると普段歩くことができない場所を歩くことができるというおもしろい現象が起こるのです。普段、歩けない場所を歩くと、ドブガイの殻やトビケラ

の巣(水生昆虫で巣の大きさは約 1cm)など湖の中であった証拠をみつけることができます。

で 10 種類以上の足跡が見つかりました。



※トビケラの巣と幼虫

トビケラの巣と幼虫

他にも普段は洞爺湖の水があって見ることができないところに冬の間、動物たちが休憩するために使っていたと予想できる場所であったり、キツネや猛禽類が狩りに使った場所があったりもします。

3 月はまだ雪が残っている時期なので、動物の足跡から行動を予測するのも冬の自然観察の醍醐味でもあります。今年は財田

冬は野外に出る機会が遠ざかるかもしれませんが、視点を変えて外に出かけると毎回、新たな発見があり、自然観察はやはりおもしろいと感じる日々です。

まだ雪が残っている洞爺湖ですが、フクジュソウが咲き、そろそろ暖かい季節がやってくる予感がする洞爺湖からのフィールドニュースでした。

ウォッチングレポート



札幌市 「北大雪氷観察会」 2014/1/12

天候 雪 掲載紙

当日の気温は -4.5°C で、雪が降る中、北海道大学クラーク会館前に集合し、中央ローン広場の雪原にて観察会を行った。前半1時間は科学的な積雪観察について、後半1時間は五感で楽しみながら積雪を体験する内容である。断面観察用ピットを掘り、温度計を用いて気温や雪温を測定して積雪の断熱性について学び、インク法やブラシ法を用いて積雪層構造を観察するなど、積雪について科学的に観察した。なお、観察場所の積雪深は59cmであった。今回は特別に日本雪氷学会北海道支部が作成した「雪の観察シート」という雪の写真が多数載っているシートを用いて積雪や降雪の観察を行った。





後半は、測深棒で計 25 地点の積雪深を測り、積雪深の分布表を作成した。この結果を見ると、深いところと浅いところの差があることが理解でき、積雪深のばらつきについて学んだ。

次に、目隠しをして雪上歩行競争を行ったり、ジュースを凍らせた「カラー氷塊」を雪の中に埋めて宝探しゲームをしたり、足や手で雪を体感した。どのゲームも大人と子どもが共に楽しめるものであった。

最後に、接写装置を使って降雪結晶の写真撮影を行った。時折激しく雪が降ってくる中、科学的な視点から雪を観察する方法を学ぶとともに、身体を動かしながら雪を感覚で観察することができ、参加者は貴重な体験をしたようである。



(山田 高嗣)



参加者の声



札幌市北区「屯田防風林」観察会 2014/2/23

100mの幅で長く続く屯田防風林。その自然観察会があると知り参加しました。創成川や防風林の成り立ちや(過去の?)役割についての説明で、石狩の変遷の一端を知ることができました。

創成川の温かい処理水合流部では、数羽のヒドリガモやマガモなどが”足湯”よろしく気持ちよさそうに寛ぎ、多くの野鳥にとっての餌場であることを知り、人間の営みが思わぬ所で役立っていると勝手に納得しました。

次に訪れた防風林内は、雪の反射で明るく、シジュウカラやヤマガラ・アカゲラなど多くの鳥の縄張り争いや採餌の声で賑やかでした。また、雪の中から枝をのぼしている木々の冬芽を観察。オニグルミやエゾニワトコ・ヤマグワなど耐寒の工夫の違いを教えてもらいました。

住宅地に囲まれたこの小さい緑地にも多くの生物が生息し、それぞれきびしい寒さに耐えている姿を再認する楽しい観察会でした。

(竹内 正)



ウォッチングプラン

開催予定日	テーマ	観察地	集合場所・時刻・注意事項	交通機関	連絡先
6月21日 (土)	奇跡の自然砂浜海岸 オタネ浜を歩く	銭函海岸・オタネ浜 新川河口～石狩湾新港	新川河口駐車場(駐車スペースは広い) 10:00 集合～12:00 解散 帽子・水を忘れないでください	手稲山口団地から徒歩。JR手稲駅北口から「山口団地」行きバスで10分。そこから新川を左手に見て徒歩30分。車は新川河口に駐車場有り。	後藤美智子 0134-29-3338
7月12日 (土)	蘭島海岸の海浜植物と 海産動物の一部、海底 火山の噴火の跡	蘭島海岸から忍路峠 を経て忍路湾へ	JR蘭島駅 8:30 集合～12:00 忍路湾解散	小樽発8:07 長万部行き、蘭島下車または小樽・余市間バス(約20分おき。約25分で蘭島)	後藤言行 0134-29-3338
7月13日 (日)	「夏の錦大沼」観察会 葉の形のいろいろ	苫小牧市錦大沼総合公園 錦大沼総合公園	錦大沼総合公園駐車場 8:50 集合・9:00～12:00 解散。雨天原則決行・強風日中止。あれば双眼鏡・ルーペ・図鑑など持参	自家用車のみ	佐々木昌治 0144-67-2022
7月13日 (日)	「平岡公園」観察会 人工湿原の変わる様子を 観よう	札幌市清田区平岡公園 平岡公園	平岡公園第一駐車場(厚別中央通沿い) 10:00 集合～12:00 解散 小雨決行	地下鉄東西線 大谷地駅発中央バス「大 66」ジャスコ平岡店行・平岡5条3丁目下車(前方左の緑地歩道を200m、徒歩5分)	佐藤佑一 011-881-5336
7月13日 (日)	「夏の円山公園」観察会 円山登山	札幌市中央区 円山公園 円山公園	地下鉄東西線円山公園駅 1階バス待合所 9:00 集合～12:00 解散	地下鉄東西線円山公園駅下車	山形誠一 011-551-5481
7月19日 (土)	親子観察会 星置川の生きものさがし	札幌市手稲区星置川	JRほしめ駅北口前駐車場 10:00 集合～12:30 解散。濡れてもいい靴、着替え。	JRほしめ駅下車	横山武彦 011-387-4960
7月20日	「街中の自然・屯田防風林」観察会 ②夏編 神秘的な甘い匂いが漂う オオウバユリ群落を観察しよう	札幌市北区 屯田防風保健保安林	下水道科学館前駐車場 10:00 集合～12:00 解散。雨具、あれば図鑑、双眼鏡。	地下鉄南北線麻布駅出口2番から徒歩15分。中央バス札幌ターミナル発下水道科学館前下車徒歩5分。JR学園都市線新琴似駅下車徒歩15分	池田正明 011-708-6313
7月27日	「精進川」観察会 精進川周辺を散策してみよう	札幌市豊平区 精進川河畔公園	地下鉄南北線「中ノ島駅」2番出入口 10:00 集合～12:00 解散。帽子・飲み物・雨具の用意、履きなれた靴。	地下鉄南北線「中ノ島駅」下車 2番出入口	鈴木ユカリ 090-3897-9762
7月27日	「手稲山」観察会 登山道での生き物たちとの 出会いを楽しむ	札幌市手稲区金山172(山麓駅～山頂)	「手稲山ロープウェイ山麓駅」駐車場。10:00 集合～14:00 頃解散。昼食持参・飲み物・雨具・筆記用具。雨天中止(都合により途中下山もあります)・トイレはありません。	自家用車のみ	高田敏文 011-684-0989
8月9日 (土) ～10日 (日)	「第25回滝野の自然に 親しむ集い」滝野自然学 園親子1泊2日観察会 夏休み野外学習(親子・子供特集)	札幌市南区 滝野自然学園	申し込み方法、申し込み締切など詳細は未定。決まり次第、新聞、広報誌などでお知らせします。お問い合わせは「連絡先」の指導員まで	地下鉄真駒内駅より中央バス「滝野公園」行き「アシリバツの滝」下車徒歩3分	池田政明 011-708-6313
9月6日 (土)	「秋の紋別岳」観察会 秋の花・樹木	千歳市 支笏湖外輪 紋別岳(864m)	中央バス支笏湖湖畔バス停前 9:40 集合～15:30 解散予定 登山靴不要 昼食持参	JR札幌駅7:48 発「エアポート」8:19 千歳駅着千歳駅前中央バス8:50 発「支笏湖畔行き」支笏湖畔下車 有料駐車場有	谷口勇五郎 0144-73-8912
9月6日 (土)	「石狩浜」観察会 “初夏の花々と野鳥の 観察” ～ナガボノシ ロワレモコウ・ユウゼ ンギク・オカヒジキな ど、また浜辺でのシ ギ・チドリ類の渡りな どの観察～	石狩市ハマナスの丘公園	石狩市ハマナスの丘公園ビジターセンター 10:00 集合～12:30 解散。日陰がありません。帽子を持参のこと。	中央バス札幌ターミナル8:30 発「石狩」行き乗車 終点「石狩」下車 徒歩20分 自然観察110号(15)	後藤みや子 0133-74-2293

9月14日 (日)	「平岡公園」観察会 人工湿原の変わる様子を 観よう	札幌市清田区平岡公園 平岡公園	平岡公園第一駐車場(厚別中央通沿 い) 10:00 集合～12:00 解散 小雨決行	地下鉄東西線 大谷地駅発中 央バス「大 66」ジャスコ平岡 店行・平岡5条3丁目下車 (前方左の緑地歩道を 200m, 徒歩 5分)	佐藤佑一 011-881-5336
9月14日 (日)	もつともつと藻岩山 藻岩山散策(旭山記念 公園～慈恵 会)	札幌市中央区～南区 藻岩山	旭山記念公園駐車場 10:00 集合～14:00 慈恵会駐車場で 解散 昼食持参	地下鉄東西線 円山公園バス ターミナル発, JR バス「旭 山記念公園」行き	山形誠一 011-551-5481
9月14日 (日)	「野幌森林公園(大沢 口)」観察会 秋の野幌の森を歩く (子供連れ歓迎)	江別市 野幌森林公園 大沢 口	野幌森林公園大沢口駐車場 10:00 集合～12:30 解散	JR バス新札幌駅発 循環バス 83 番, JR 森林公園駅→徒歩 8 分 国道 12 号線開拓の村入口 バス停→循環バス, 「文教台 南町下車」徒歩 10 分	横山武彦 011-387-4960



☆総会が終わりました。今年度また、スタートしました。会員の皆様のご協力・ご支援方宜しく願います。

会報の中でも記しておりますが、来年度から会費を値上げすることで、総会の了承を頂きましたが、諸物価高騰、消費税アップ等の中で、ご負担になろうかと存じますが、よろしくご理解のうえ、ご協力賜りますよう改めてお願い申し上げます。値上げに伴い、会の活動の一層の充実・強化も合わせて取り組んでいかねばと会長以下理事全員、肝に銘じております。

また、この会費値上げに関連して北海道自然観察協議会会則の改正案の「付則」蘭に「2014年4月13日(但し、第9条2項については、2015年度4月1日より施行する)」を付加するという提案がされ、了承されましたので、お知らせいたします。

☆皆様から頂いた原稿、紙面の都合で掲載を約束した会報に載せることができない場合があります。この点、順送りの掲載とさせていただきますのでご了承願います。

【連絡先】

北海道自然観察協議会のホームページ <http://www.noc-hokkaido.org/>

会費や寄付は 郵便振替口座 02710-1-8768

会計 三澤 英一 北広島市松葉町5丁目9-16

会費振込加入者名 北海道自然観察協議会 三澤 英一

観察会保険料は 郵便振替口座 02770-9-34461

観察会担当会計 小川 祐美 小樽市望洋台3-13-5

TEL/Fax 0134-51-5216 E-mail streamy@estate.ocn.ne.jp

観察会報告書・資料は 観察部 山形 誠一 札幌市中央区双子山1丁目12-14

TEL/Fax 011-551-5481 E-mail seichi.y@jcom.home.ne.jp

退会、住所変更の連絡は 事務局 池田 政明 札幌市北区麻布町4丁目9-16

TEL/Fax 011-708- E-mail ecology@cocoa.ocn.ne.jp

事故発生等緊急時はアスカ・リスクマネジメント 担当 本間氏 TEL 011-873-2655

投稿や原稿は 編集部 村元 健治 札幌市手稲区星置2-8-7-30

TEL 011-694-5907 E-mail cin55400@rio.odn.ne.jp

表紙写真 森 繁寿



自然観察 2014年6月15日 / 第110号 年4回発行

(会員の『自然観察』購読料と郵送料は会費に含まれています。)

発行 北海道自然観察協議会

編集 北海道自然観察協議会編集部